

第8回（平成10年度）BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰作品

明石の家

所在地 兵庫県明石市大久保町西島1185-1
用途 専用住宅（改修・復元後）
造り酒屋（改修・復元前）
竣工 1720年
改修 1996年
所有者 ト部和彦
改修設計者 神家昭雄
（古民家再生工房 神家昭雄建築研究所主宰）
八木雅夫
（明石工業高等専門学校助教授）
田原 賢
（田原建築設計事務所主宰）
改修施工者 株式会社 川嶋建設



この住宅は、阪神・淡路大震災で被災した伝統民家を再生したものである。もとの民家は、西の「灘」と呼ばれるほど酒造所として繁栄した明石の西島地区にあり、約300年前の17世紀中期に酒蔵と一体に建てられた住宅である。この住宅を、地震前の状態に復元させるのではなく、魅力的な現代住宅として再生し、そこに豊かな暮らしを営みながら伝統住宅を継承し、伝統と現代を内包した建築をつくることを基本理念としている。つまり、民家の古い骨組や空間構成、蓄積された記憶や歴史、知恵を活かしながら、新しい機能や現代的センスをぶっつけてデザインをし直し、古い建築に新しい生命を吹き込んだ現代住宅として甦らせている。黒光りする柱や梁は歴史を感じさせ、そこに現代感覚のデザインと現代住宅に見合った利便性を確保し、新築では絶対に作り出せない新鮮な空間を出現させており、20代の若い住み手にも好評のようである。

震災の被害を教訓に、伝統的な骨組やその魅力を損うことなく、構造用合板を用いた耐力壁をバランスよく配置し、床面や屋根面の水平構面を補強し、建築基準法で想定している2倍以上の耐震設計がなされている。又、将来の維持管理が技術的にも容易になるように、元の骨組と新たに加わった耐力壁や部材は明確に区別されており、伝統民家の更なる継承が意図されている。

以上のようなこの住宅にこめられた考えは、住み手である施主の積極的な同意なしには実現されないことであるが、設計者の伝統的な民家の再生に対する社会的認識を高めようとする熱意はただものではないことをうかがわせる。又、この工事の施工者も、この意図をよく理解し、献身的な対応と、職方の懇切な施工技術により、ともすればコストアップになりがちな工事を現実的レベルでうまく処理している。

以上、震災で解体もやむなしとまで考えられていた伝統民家を、その伝統を生かしながら再生させ、新しい現代感覚のデザインと機能を大胆に附加させながら現代住宅としてよみがえらせた作品として、その社会的意義と共に高く評価されるものと考ええる。